

令和元年度第7回士別市教育委員会会議録

1. 日 時 令和元年 9月17日(火) 午後4時00分～午後5時10分
2. 会 場 教育委員会 教育長室
3. 出席者 教育長 中 峰 寿 彰 生涯学習部長 鴻 野 弘 志
代理 五十嵐 紀 子 朝日地区スポーツ統括監 長 南 広 基
委員 千 田 秀 昭 合宿の里統括監 三 上 正 洋
委員 馬 場 千 晶 学校教育課長 須 藤 友 章
委員 加 藤 洋 之 学校教育課事務管理監 大 留 義 幸
文部科学省研修生 土 橋 廉

4. 議 件 (発言者、議事要旨及び議決事項)

○土橋研修生からあいさつ

○中峰教育長あいさつ

農作物の収穫などで忙しい時期でもあるが、よろしく願います。

土橋さんからご挨拶いただいたとおり、昨年、一昨年に続き文部科学省から研修生を受け入れている。すでに学校などで研修を行っているが、ある校長からは「短時間の中で、学校の課題や特徴を捉えていた」との話も聞いている。また、食育に関する部署に所属していることもあり、とりわけ給食センターでは、適切な助言もいただいたところである。

後ほど説明するが、先週末で終了した第3回定例会では、真保議員、苔口議員、佐藤議員の三氏からそれぞれ一般質問があった。

各中学校では学校祭が終了し、委員のみなさんにはそれぞれ足を運んでいただき感謝する。私は短い時間ではあったが全ての学校を訪問することができた。多寄中は最後の学校祭を地域と一体となって盛り上げ、朝日中では生徒が協力して舞台を作り上げるなど、各学校の特徴がよく出ていたと思う。

連休中は市民クロカンやMGCもあり、昨日はサマージャンプの最終戦もあった。それぞれ陸上競技協会、スキー連盟などにも協力いただき、改めて地域の人の力を感じた。新聞では東京オリンピックマラソンの直前合宿が千歳市に決定したとの報道もあり、少し残念に思う。士別としてできることを考えていきたい。

23日には川内村から「コラッセ夏学校」に参加する児童が来市する。10月2日には北部地区の研修会もあるので、よろしく願います。

1 議事について

○中峰教育長 進行

議案第20号 令和元年度士別市教育委員会補正予算について説明を求める。

○長南統括監

9月7日に三望台シャンツェのスロープカーが故障した。メーカーに見てもらい、現在なんとか動いている状況。平成9年に整備し、22年が経過している。この間、平成20年にはオーバーホールを行い、以降年2回点検してきた。部品の耐用年数が来ているため、既存のレールを活用しゴンドラを更新するもの。

○中峰教育長

大会の時も安全性を確保するため職員が同乗し選手を運搬した。

※ 議案第20号 了承

○中峰教育長

議案第21号 年末年始の休日の変更に伴う関係規則の整理に関する規則について説明を求める。

○鴻野部長

本市では12月31日から1月5日までを年末年始の休日としているが、国や北海道は12月29日から1月3日までとしている。近年、道内の自治体において国等の日程に休日を合わせる動きが見られるようになった。本市でも検討した結果、年末年始の休日を変更しても大きな影響がないと判断し、本年から休日を変更するもの。

○中峰教育長

地域としても、年末年始の休日が国などと違うことに慣れてしまっている感もあるが、変更していく必要もあると感じている。

○千田委員

農業者トレーニングセンターはお盆や神社の祭典で休館となっていた。

○長南統括監

武道館も同様である。地域的習慣の中で管理人の勤務の都合上、休館日を設定していた。

○鴻野部長

市民等に周知する期間を設けるため12月1日からとしている。

※ 議案第21号 了承

○中峰教育長

議案第22号 士別市立学校職員服務規程の一部を改正する規程について説明を求める。

○須藤課長

日本工業規格が日本産業規格に変わったことにより、規程本文ではなく様式の一部が改正になるもの。

※ 議案第22号 了承

2 報告事項について

第3回定例会における一般議案及び一般質問について 資料を基に鴻野部長から説明

○千田委員

改めて本市の奨学金は資金を循環させて運営していると実感した。

○中峰教育長

平成27年くらいまでは運営資金が厳しかった。最近は貸付枠を超える申し込みがない。収入が低い時は返済額を少なくするなど相談にのっている。

○五十嵐代理

仕事が順調なら良いが、辞めてしまうと返済が滞ってしまう。そのため借りることを諦めたという話を聞いた。

○加藤委員

地元就職すれば返済が免除される仕組みなどは人材確保の点でメリットがある。

○中峰教育長

市立病院の奨学金では、長年実施されている。一定期間仕事をしてから戻ってきた場合や、農業後継者のUターンなど、どう想定するかも必要。

○加藤委員

もし別な職に就いたとしてもスキルアップになる。

○中峰教育長

少子化で大学などは学生の確保に苦勞している。卒業後も収入が安定しない働き方をするケースが多く、家族も心配と思う。市の奨学金は学生支援機構の基準を準用しており、世帯の状況によって大きく算定額が変化する。収入要件の見直しについても検討が必要と考えている。

発達障がいについては、初期段階や気づいた時点での体制が重要である。名寄市には窓口として教育相談センターがある。本市ではどういう内容で対応できるか。社会福祉士などの資格保有者を配置することが理想だが難しい状況もあるなかで、どう対応していくか。

○加藤委員

発達障がいは早く見つける必要がある。障がいを家族が認められず家庭不和になる場合もある。障がいは認知されてきていると感じるが、依然として蔑みなどがあるのではないか。

○中峰教育長

認知はされていても理解されていないと感じる。周囲の目などを気にする状況も依然としてある。

○五十嵐代理

障がいはさまざまで、子どもによって違う。進級するにつれ、落ち着いてくる例もある。

○中峰教育長

支援が遅れてしまうケースもある。気づいた時に相談が必要。

○馬場委員

子どもが小さいうちは躰が悪いと言われるが、そうではなく障がいだということがようやく分かってきた。

○五十嵐代理

躰の方法はみんな違うもの。

○中峰教育長

インクルーシブ教育が話題となっているが、障がいのある子どもを通常学級に含めしまうと教職員が加配されなくなり、定数の考え方が現実と合わない。一方で、本年3月で西小学校が閉校になることが明らかなかで、1年間のみ学級数が減となることに伴い、教職員を減らさなければならないという昨年の人事協議は画一的なものであり、いかがなものかと強く思った。

3 その他について

当面する今後の日程について

鴻野部長説明。

午後5時10分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署名者

中峰 寿 彰

会議録調整者

須藤 友 章